

| プログラム名 | 講堂学習 | | 活動時間 60～90分 |
|---------------|---|---|-------------|
| 概要 | <p>○学校建築として全国2つしかない国宝の講堂の中で、『論語』を学習材として、素読・講釈・会読の体験をする。 ただし、会読については、事前相談の際に希望の有無を確認する。 ○最大人数 150人 それ以上の時は相談</p> | | |
| ねらい (SDGs) |  | <p>○閑谷学校での学びを現代に生かす。(温故知新) ○現代の教育基本法に定められた教育の目的である「人格の完成」につながる人類普遍の考え方を『論語』を通して学ぶ。 ○主体的・対話的に学び、自己の生き方について考える。</p> | |
| 準備物 (服装など) | <p>○教育センター・・・学習用テキスト、ほうき、布巾 ○研修団体・・・重ね履き用靴下、清潔な服装(制服でなくてもよい)</p> | | |
| 研修の流れ | <p>○集合場所にて整列(団体引率者の指導) ※活動開始時刻に整列が完了している状態。 ○史跡へ移動、建物へ入場(センター職員で引率) ○荷物置き、靴下の重ね履き、円座配布 ○講堂へ入場、整列 ○論語の学習(素読・講釈・会読) ○清掃(清掃までが講堂学習) ○退場</p> | | |
| 研修場所 | <p>集合場所 ○屋外・・・つどいの広場 ふれあいの広場 神社門前 など ○屋内・・・プレイホール 各研修室</p> | <p>活動場所 講堂(飲室、習芸斎) 出前授業も随時受付</p> | |
| 引率者への留意点 | <p>○事前準備 ・講堂学習希望調査票を提出する。 ・重ね履き用靴下を準備する。 ○研修当日 ・講堂内で整列指導をする。(講堂内図は裏面参照) ・車椅子や足の怪我などで正座ができない時の対応をする。 ⇒円座を重ねて足を伸ばして座る。(列の一番後ろ) 廊下から参加させる。 など ・荷物を講堂床に直接置かない。(円座の上に置くなど) ・清掃時、用具受け渡しなどの補助をする。</p> | | |

研修内容
(図案)

○活動の流れ

- ①集合場所で整列（団体引率者の指導）
- ②閑谷学校にまつわる人物についての説明（センター職員）
- ③史跡へ移動開始
⇒神社門から入る時、一礼して敷居を踏まないように入る。
- ④飲室前に整列し、学びの心構えなどを説明。
- ⑤飲室から建物内へ入る。（人数によって、習芸齋側も使用）
- ⑥習芸齋で整列し学習への準備をする。
⇒荷物置き、円座配布、靴下の重ね履き
⇒円座の扱い方、なぜ靴下を重ね履きするのかを説明し、
だから素手で床などに触れないようにと注意する。
- ⑦講堂へ移動し、整列（団体引率者の指導）
- ⑧学習開始/終了（素読、講釈、会読）
⇒円座の座り方は、正座、胡坐、横座など無理のない状態にしつつ、
臍下に力を入れて背筋を伸ばし、心を静めることが重要である。着
席後→「瞑目」「正座（静座）」→「瞑目止め」「礼」の後、学習に入
る。「静座」は着席している間ずっと心掛ける。
- ⑨清掃についての説明（センター職員）
⇒清掃の意義、掃き・拭き掃除の仕方などを説明する。
- ⑩清掃開始、終了
- ⑪道具を片付けた人から建物外へ出る。
- ⑫飲室前で整列し、次の活動に向けて移動。
⇒史跡探訪、写真撮影、退場

○学習構成について

- 素読・・・論語を声に出して読むこと
- 講釈・・・論語の意味や解釈を聞くこと
- 会読・・・設定されたテーマについて、少人数班で話し合うこと

○講堂内での整列について

- 教授方を中心に整列する。
- 学校団体はクラス横4列で構成するとよい。
- 縦は12人以下にするとよい

